

② 授業検討「個別最適な学び」と「協働的な学び」

1 年次に集約した「本校生徒に必要な活動・体験」から「個別最適な学び」に関する指導を**様式1**、「協働的な学び」に関する指導を**様式2**としてワークシート形式に作成した。そうすることで、担当している教科等が違って同じ様式を使って「本校生徒に必要な活動・体験」を取り入れた授業について検討し、実践、評価できるよう計画した。その際、事例研究の対象生徒に関わる授業を中心に計画、評価するようにし、事例研究で作成した**個別の指導計画（校内研究用）**における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の各場面の評価に反映できるようにした。

校内研究用 授業検討「個人最適」

1. 授業目標の検討と達成状況

2. 実施する授業、時間

3. 出席

4. 個別に設ける学習活動

5. 主体的学習活動

6. 個別の指導計画

様式1

個別の指導計画（校内研究用）

1. 生徒の状況（個人最適）

2. 指導計画（個人最適）

3. 指導計画（協働的な学び）

4. 指導計画（協働的な学び）

個別の指導計画

校内研究用 授業検討「協働的な学び」

1. 授業目標の検討と達成状況

2. 実施する授業、時間

3. 出席

4. 協働的な学習活動

5. 協働的な学習活動

6. 協働的な学習活動

7. 協働的な学習活動

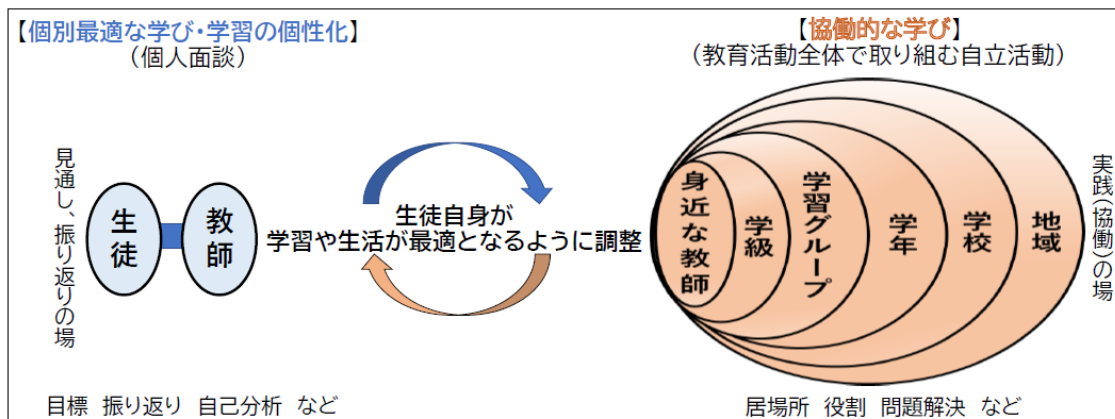
8. 協働的な学習活動

様式2



また、生徒視点で考えると、教師との個人面談の中で学校生活に対して見通しを持ったり、自立活動につながる目標を考えたりし、それを各教科等の中で生徒自身が実践したり、人との関わり合いの中で様々な見方や考え方を学び、また教師との面談の中で自分の成長について振り返ったり、自己理解を進め次の目標や取組に生かしたりするというサイクルの中で、生徒自身が学習や生活が最適となるように、そして学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を高められるような指導を目指したい。

ここでは、各学年の実践事例の中からいくつか紹介する。



1 学年

様式 1 : 3 事例

様式 2 : 5 事例

対象生徒： B

1. 対象生徒の自立活動の目標

- ・様々な経験を通して、自己に肯定的な感情を高めていくことができる。

2. 実施する期間、授業

- ・5月～
- ・LHR

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主な要素

- ☐ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☒ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☒ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☐ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5.工夫や配慮したこと

- ・あらかじめ LHR で、本人の自尊感情についてチェックリストを用いながら確認をした。
- ・遅刻・欠席が続き、本人の状態が良くない場面で面談を行い、自己の状況を振り返ることができるよう、資料を提示した。

6. 面談内容と指導の結果

- ・学校は楽しい。作業は大変だけれどやりがいがある。得意な方だと思う。
 - ・遅刻や欠席などで登校が安定しない理由は、寝坊してしまうから。
 - ・寝坊は目覚ましをかけ忘れて寝てしまうから。前の日に遅くまで起きているから。
 - ・今一番困っていることは、朝起きれないこと。
- まず、4月から6月までの登校状況をグラフにして提示することで、欠席率、欠課率が具体的に分かった模様。
- 一般就労を希望しているが、今後このままの状況で働いたとしても、信用が得られない、クビになるなど、自分の言葉で遅刻・欠席が続くことへの弊害を話すことができた。
- スマホのアラームを平日7時になるように設定した。
- ⇒
- ★この面談後、2週間ほど欠席なしで登校することができた。その頑張りを認め、励まし続けているが、最近では中だるみが見られるため、夏休み明けは要注意である。

対象生徒：__F__

1. 対象生徒の自立活動の目標

- ・相手の立場や気持ちを考えた言動ができる。

2. 実施する期間、授業

5月～研究期間

LHR、作業の振り返り、昼休み、放課後

3. 面談者

- ・担任（同じ学科のスタッフにも協力していただいた）

4. 面談における主要要素

- ☐ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☒ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☒ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☒ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5. 工夫や配慮したこと

- ・面談中の話の内容を図や言葉で書いて示しながらお話しした。
（・担任だけでなく、他の先生方との面談も実施した。）

6. 面談内容と指導の結果

・友達とのトラブルで悩むことが多かった。自分の言動が相手に良くも悪くも影響するため、言葉選びや相手の話を聞くことの大切さについて考えることができるようになり、大きなトラブルは減ってきている。

（1年の後半、進路について深く悩んでいた。担任だけでなく、同じ内容の話を角度を変えて、他の先生からもしていただいた。自己理解が深まっていなかったため、適切な進路先を見つけられていない。）

対象生徒：__I__

1. 対象生徒の自立活動の目標

- ・相手に聞こえる声で返事ができる。

2. 実施する期間、授業

7月8日（金）LHR

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主な要素

- ☒ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☒ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☒ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☐ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5. 工夫や配慮したこと

- ・前回の面談から今までの教師から見た本人の様子を振り返って図にしたメモを見せて、自分の気持ちの変化を振り返りやすくした。

6. 面談内容と指導の結果

- ・「話しかけられたときに、頷いたり相手の顔を見たり、反応することができるようになった。学級では緊張がなくなってきた。もう少しで声を出して返事ができると思う。」と振り返ることができた。
- ・学年の「楽レク」でも他のクラスの生徒と関われるようになりたいと楽しみにしている様子だった。15日（月）の学年LHRでグループの発表と話し合いがあるので、学級と同じように反応できるように挑戦してみようと伝えた。

記入者： 新保 裕行

対象生徒： A

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

随時

主に授業間の休み時間、授業の開始時

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☒ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☐ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☐ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☒ その他

教師の呼びかけに応じて、うなずく、話すなどによって自分の意思を表出する。
また、表出された意思を丁寧に共感的に受容する。

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☐ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☐ 教科別の指導（ ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探究の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☒ その他（その他の指導場面、特記事項）

授業間の休み時間、授業の開始時

顔を机に伏せて動かない原因が、授業の内容である場合は、可能な範囲で該当教科と調整する。

5. 具体的な学習内容（単元名等）

6. 指導体制

新保が注意や生活指導を行い、担任が受容的・提案型の関わりを行って、クラス中で役割を分担する。

まずは、同じ学級の職員と、大人・本人の2者関係（信頼関係）を構築することを目指す。

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

かつて家族で起こった経験から、力で強制的に体を動かしてしまうと、“力で物事を解決しても良い”という誤学習につながる恐れがあるため注意が必要。但し、ただ単に面倒くさがっていると判断できる場合や、共感的に理解できる事由がない場合は、この限りではない。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

4月から指導を継続する中で、顔を机に伏せて動かなくなる原因となっているのは次のとおり。

- (1) 午前中の授業（主に作業学習）で頑張って疲れた（寝て休みたい）。
- (2) 授業の中で失敗した、うまくいかなかったことがあった。
- (3) 次の時間の授業で、明らかに苦手な（興味がもてない）内容がある。

・細かな正確さを求められる ・他の生徒と話すことが求められる など

当初は呼びかけても反応がなく、机にしがみつくなことが多かったが、次第にうなずいたり、短いながらも原因を話したりするようになってきている。

記入者：千葉

対象生徒：D

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

9月～12月

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☐ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☒ 学級 ☒ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☐ 教科別の指導（ ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☒ 作業学習（食品デザイン） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

- ☐ 製菓作業
- ・製造：木の実ボール、ディアマン
 - ・販売活動：会計、告知等
- ☐ 縫工作業
- ・製造：パッチワーククロス、2ポケットポーチ
 - 作業内容・工程：ミシン、はぎ合わせ等

6. 指導体制

製菓作業：千葉、本間 T、秋場 T
縫工作業：千葉、本間 T

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

- ・本人の実態に合わせた題材の設定
- ・担当教員の明確化（明確にすることでコミュニケーションの場面を引き出す）
- ・教材、教具の工夫（工程表、治具など）
- ・見通しを持てるような学習内容（レシピ確認や縫工練習の適切な設定）

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

なし

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- ・ミシンでは線に合わせながら取り組むことができるようになってきた。題材の変更で工程がよく理解できていないときは、少し線からずれてしまうことがあった。
- ・縫工作業の場面では、担当教員を明確にすることで自分から相談や確認を行う場面が見られるようになってきた
- ・製菓作業の販売活動では、繰り返し練習を行うことで、会計や告知の仕事を教師と行うことができた。大きな声でのやりとりができた。

記入者：千葉、本間 t

対象生徒： D

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

2 学期いっぱい。

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☐ 教師と ☒ 学級 ☐ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☐ 教科別の指導（ ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☒ 作業学習（ 縫工作業 ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

- ・縫工作業（パッチワーククロス）
- ・製菓作業（計量・製造、販売会など）

6. 指導体制

千葉、本間 T（大井 T）

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

メモの活用、指導者を明確にする、本人にあった題材の設定

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

なし

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- 〈目標〉手指機能の向上
- 〈手立て〉本人に合った題材の設定
- ・パッチワーククロスの作成を行うことでミシンが格段に上達している。
 - ・ピン打ちも自分のやりやすい方法で上手にできている
 - ・本人に合っている（作業工程、興味・関心）ことで、ポイントを思い出すのが早くなった
 - ・縫い線を自分で引けるようになるなどできることが増えた
 - ・製菓作業では、1～4回同じ題材（製菓）で行っている。1回目と4回目では計量や製造での様子は段違いに良くなっている。
- 〈目標〉状況に応じたコミュニケーション（自分から相談や質問）
- 〈手立て〉指導者を明確にする。メモの活用
- ・明確にしたことで自分から報告している
 - ・作業の理解が深まってきたため、自分から相談する場面も見られる
 - ・販売会の告知では、友達と考えた商品説明を職員室で発表することができた

- スタンプ係の仕事で状況に応じた対応を教師の支援を受けながら取り組むことができた。
- 製菓の工程表を見て、自分から報告し、進んで次の作業を行うことができた。
- メモの活用については、本人に工程表があっているか、実物見本が合っているのかも含めて考えていく。

〈次に向けて〉

- 指示理解が2項目（4項目の説明をおこなうと最初の2項目のみ覚えている）である。今後、指示理解についても成長の可能性があるのでは
- 他の生徒との協働作業を通して、コミュニケーションの面での成長を確認していきたい

記入者： 山平、島尻 T、山田 T

対象生徒： E、F

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

7月19、20

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☒ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☒ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☐ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☐ 教科別の指導（ ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探究の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☒ 作業学習（福祉サービス科） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

1 学期のまとめ（1 学期で学んだ内容をグループごと模造紙にまとめる）

6. 指導体制

19 日：山平、島尻 t、梶上 t、山田 t、田村 t

20 日：山平、島尻 t、秋田 t、山田 t

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

グループ編成（生徒主体で進めることができるよう、リーダーシップを発揮する生徒を配置する）
手順を整理できるようなワークシートを用意する。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

特になし。

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- E：グループの仲間から仕事をお願いされたが、何をすればよいか分かっていない様子。
メモを取るのには難しい様子。意欲はある。口頭指示では理解難しい。
- F：指示理解していない様子。他者の関わりの面では、「行き過ぎてしまった」と反省しており、相手の立場で考えることができるようになってきている様子。
- 今後について
- ・本人にとって分かりやすい指示、提示の仕方を教師が考え実践する。
- 具体的には、指示を一つ一つ細かく区切り、終わったら報告させる。
- ・流れを理解するまで教師が付く。
 - ・指示理解が苦手な生徒を近くの席に配置し、教師が付く。
 - ・ファイルの整理を教師と行う。
 - ・自己中心的な発言があった場合は、その都度伝えたり、日誌の振り返りの際に伝えたりする。

記入者： 西田

対象生徒： A、B、C

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

6月

2. 計画する活動・体験

- ☐ 課題を解決する。
- ☒ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☒ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☐ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☐ 学習グループ ☒ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☒ 教科別の指導（ 理科 ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

電気（直列、並列つなぎをやってみる）

6. 指導体制

MT：西田 ST：三鹿

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

- ・並列つなぎ時に電池を1本抜いたとき豆電球はどうなるか？また明るさはどうか？
→1回路をグループで組み立て、のちに電池を抜いたりする。
- ・一人の生徒が全部やってしまうことのないよう生徒の取組を見て指示をする。
- ・実験のまとめ（プリントを記入する）

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

- ・他学年と実験器具の重なりがないか。
- ・実験器具に破損がないか。

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- A：積極的に実験を進めていた。まわりと適切な関わり方で協力しあえることが今後必要であると思う。（言葉遣い、コミュニケーション、関わり方など）
- B：グループの友達が実験する様子を見て、自分もおこなってみる。周りの様子をうかがってから動く。具体的に実験書で見通しをもてるものを示せば自ら活動できるか？実験の考察、レポートは適切に書かれていた。
- C：実験中わからないことがあれば教師を呼ぶ。友達と相談をしてすすめていた。失敗も成功のもと失敗しても次に何を直せばよいのかを考察し、次にいかす活動その指導を取り入れていきたいと思う。

2 学年

様式 1 : 2 事例

様式 2 : 5 事例

対象生徒： K

1. 対象生徒の自立活動の目標

- ・情報を整理して、必要な行動をとることができる。
- ・場面や状況を見ながら、優先順位を考えて行動することができる。

2. 実施する期間、授業

- ・通年
- ・LHR（放課後）など

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主な要素

- ☐ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☒ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☐ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☐ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5.工夫や配慮したこと

- ・予定や活動について付箋に書いた物を机の上に貼る。
- ・見本を見せて、整理・整頓の基準を設けた。金曜日の帰る前にファイルの整理を行う。

6. 面談内容と指導の結果

- ・予定については記憶されていることが多いが、そのための準備や取り組むことについては整理できない現状について確認した。
→予定や他教員より伝え聞いたことがあれば、朝のSHRの前に予定が書かれた付箋を机に貼ることを確認している。（いつ、どこで、何をするので、何が必要か、など）
- ・学習道具を紛失したことを振り返り、自分の書棚の整理にも取りかかる必要を伝えた。
→整理・整頓されたクラスメイトを見本とし、整っている基準を提示した。（視覚的效果を図った）

対象生徒： M **1. 対象生徒の自立活動の目標**

- ・他者からの見え方にとらわれず、自分の考えや意見に自信をもち、それを適切に表現すること。
- ・なりたい自分や、今取り組むべきことを具体的に言語化する。
- ・自分の考えに自信をもって教師に伝える。

2. 実施する期間、授業

今年度通して、月2回程度
LHR（放課後）

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主要要素

- ☒ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☐ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☐ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☐ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5. 工夫や配慮したこと

- ・話した内容を紙に書き出ししながら面談を進め、内容を整理しやすくする。
- ・考えの根拠を明確にさせる働きかけをする。

6. 面談内容と指導の結果

- ・将来について、自分の考えを話したり、自ら行動することができた。
- ・自分の取り組みに自信を付け、自ら取り組んだことや工夫したことを積極的に伝えてくるようになった。
- ・自分の考えが深まっている内容、慣れた環境などやや限定的な場面ではあるが、自分の考えをただ伝えるだけでなく、伝える相手や状況に合わせて発言できることが増えた。
- ・慣れない環境では、自信がなく、発言が消極的になることもあった。準備することや、事前に教師と相談することで克服できることも多いことを本人と確認した。今後に生かせるよう、繰り返し確認していく。

記入者：小野 博之

対象生徒： K

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

週 9 時間

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☒ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☒ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☐ 教師と ☒ 学級 ☐ 学習グループ ☐ 学年内 ☒ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☒ 教科別の指導（ 社会 ）
- 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- LHR、SHR □ 生徒会活動（生徒会・委員会） □ 学校行事 □ 総合的な探究の時間
- 各教科等を合わせた指導 ☒ 作業学習（環境・流通サポート科） □ 社会生活 □ 体力づくり
- ☒ その他（その他の指導場面、特記事項）
- 1 学年や 3 学年との合同作業

5. 具体的な学習内容（単元名等）

校内清掃、受注作業、学校祭準備等

6. 指導体制

教員 3～8 名

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

作業学習において、1 年生と 3 年生との合同作業の中で、リーダーシップを発揮できる場面を設定する。作業開始前に目標設定し、終了後は自己評価をする。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

なし

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

作業学習の中で、リーダーとして作業の状況を見ながら、優先して行うべき仕事を考えていく場面を作った。作業内容の理解が不十分な面があったこととリーダーとしての経験不足から一緒に取り組んでいる生徒にタイミングよく言葉をかけることは難しい面が見られたが、作業の内容、流れを確認することで、チームで取り組むために必要なことを少しずつ理解できたと思われる。

次に向けては自ら考え、全体を把握することができる力をつけて欲しい。

記入者： 西尾牧子

対象生徒： M

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
 - できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- 対人 経験の不足、負の経験
 - 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

2学年 2, 3学期

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☒ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☐ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☐ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☒ 教科別の指導（国語）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

--

5. 具体的な学習内容（単元名等）

- ・漢字 100 問テスト
- ・スピーチ

6. 指導体制

- ・学習グループの生徒、担当教諭

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

- ・全体への指示を聞いて取り組むことができる。
- ・他生徒との交流や意見交換の時間を設ける。
- ・発表や振り返りの時間を設ける。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

- ・学習の成果に関わりのある先生方や生徒と共有する。

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- ・宿題のプリントを渡すときは、練習の仕方をシュミレーションしておく。家庭で練習し、テストで点数をとって自信を持つことができた。
- ・スピーチを生徒内で見合ったり、ゲストの先生を招いて発表することで、自信を持つことができた。

記入者： 松田

対象生徒： N

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

美術の時間

2. 計画する活動・体験

- ☐ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☐ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

最後まで根気よく取り組む

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☒ その他（上記以外の集団、特記事項）

異学年集団（部活動）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☒ 教科別の指導（美術 ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☒ その他（その他の指導場面、特記事項）
- 部活動

5. 具体的な学習内容（単元名等）

描画、粘土製作 部活動は、リーダー代行

6. 指導体制

- ・美術 16名グループ MT、ST 2名 教師3名
- ・部活 20名程（日によって変わる） 教師1～4名

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

座席配置、授業展開、関わり方 など

役割を設定し、最後まで自分で考える必要のある機会を作る

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

- ・必要に応じて担任と情報を共有する。
- ・MTとの確認

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- ・苦手なことに取り組むことはできるが、ある程度できたと自分で判断し、根気が続かない。
- ・ただ、具体的に褒めることやプロセスとして良かった点などを具体的に伝えることで自分なりではあるが、最後まで丁寧に取り組んでいた。
- ・集中が途切れそうなタイミングで声かけをしたり、作品について褒めるなどすることで集中した取り組みとなっている。
- ・部活では、リーダー代りを複数回努める中で、最初は周囲を頼っていたが仲間に指示を要求され、徐々に最後まで指示出しをするという責任感を持つようになった。その後、美術の授業でも最後まで作品を丁寧に仕上げるようになってきている。
- ・役割を持つこと、自分の考えを整理する相手を教師が担うこと、手の届きそうな目標を持つこと、達成感を持つことが自信となり、他の学習場面でも反映される。

記入者：若松 加奈

対象生徒： B、N、O

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

水谷・油矢あ 週1時間 林真 週2時間

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☒ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☐ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☐ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☒ 教科別の指導（ 社会 ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

歴史 武士の世の中～現代

6. 指導体制

教員 1 名

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

- B：自分の意見を整理する時間を取る。挙手・指名されてから順番を守って発表する。適切な箇所に、書く時間を守ってプリントに記入するよう机間巡視を行い促す。
- N：簡単な事柄の解答を細かく促し、明るい雰囲気です授業を行う。本人が自信、興味のある活動・ロールプレイや台詞読み、見て分かる調べ活動などを授業に取り入れる。
- O：物事を考える、記入する、まとめる時間を取る。わかりやすい内容の事柄について発表を促し、肯定的に受け止める。本人がわかりやすい事例を出して説明をする。体験的な活動を取り入れる。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

特になし

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- B：調べ学習では、自分の得意な分野で積極的に取り組んだ。授業中も余計な発言や寝ることがなくなり、挙手をして話したり、相手の話を待って、意見を述べたりすることができるようになった。今後はより積極的に教科書を調べたり、覚えようという姿勢を高めたい。
- N：よく集中して、時間いっぱい教師の話を聞くことや、尻込みせずに、問いに対して主体的に考えて発言するようになった。調べ学習でも、前向きに取り組み、集中して調べることができた。うっかりミスはまだあるので、確認して取り組む姿勢をより高めていきたい。
- O：できない、難しい活動に対して、拒否的な行動、聞いていなかった、という態度が減り、話を聞いて取り組もうとする姿勢で授業に臨むことができた。宿題を忘れることは多いが、やっていない事柄に対して、その場で何か答えようとするが増えた。見守りの中で時間やヒントを提示し、学習難易度を下げること、真剣に取り組んだり、分からないことを聞いたりしながら取り組むことができるようにしたい。

記入者： 嶋田かおり

対象生徒： P

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
 - できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- 対人 経験の不足、負の経験
 - 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

2学年 2, 3学期

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☐ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☐ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☒ 教科別の指導（音楽）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）
- ☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

- ・創作
- ・歌唱
- ・身体表現

6. 指導体制

- ・学習グループの生徒、担当教諭

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

- ・実態に応じたゴール（ここまでできればOKの線引き）の設定をする。
- ・机間巡視時に個別支援を行う。
- ・課題に取り組んでいる時は称賛する。
- ・グループ編成に配慮する。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

- ・トイレで始業に遅れることがあった。
- ・身体表現の話し合いでは、適切な距離感を保ちながら活動することができた。
- ・創作ではICTを活用し、視覚的にわかりやすかったためか楽しんで活動することができた。
- ・どのような学習内容でも主体的に取り組めるよう、今後も支援を工夫する必要がある。

3 学年

様式 1 : 3 事例

様式 2 : 5 事例

対象生徒： W**1. 対象生徒の自立活動の目標**

- ・相手の気持ちを考えた言動をとることができる。
- ・心配なことや不安なことに対して、解決する方法を見付けることができる。

2. 実施する期間、授業

6月～ 朝のSHR前、昼休み、放課後

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主な要素

- ☒ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☐ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☒ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☐ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5.工夫や配慮したこと

- ・日常の様子から悩み事があるように感じたので声を掛けた。自分の状態に気づき、自分の口から悩みを発することができるように紙に書きながら面談を進めた。
- ・マメに声を掛け、いつでも話を聞けることをアピールした。

6. 面談内容と指導の結果

- ・現在気持ちを占めているものを確認し、悩み事があるのではないかと感じた理由について話した。
⇒失敗や忘れ物が続く、落ち着かない、他人のミスが気になる、などの自分の状態に気付いていなかったが、客観的に知り、驚いていた。
- ・今の友達との関係、悩みについて話し始めたので、紙に書きながら整理する。私（担任）がこの友達ならこう考える、と伝えると「よかれと思ってやったことが…」と焦っていた。
⇒人と話すことで自分と違った意見を聞くことができること、それを参考に他の人の気持ちを考えることができることを感じたようだった。

対象生徒： V

1. 対象生徒の自立活動の目標

- ・自ら学年の友達に話しかけることができる。

2. 実施する期間、授業

2月8日（水） 11時50分～12時10分

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主要要素

- ☒ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☒ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☒ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☒ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☐ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5. 工夫や配慮したこと

- ・緊張しないで自ら話せるよう雑談から進めた。

6. 面談内容と指導の結果

保護者との懇談に同席して、1年間を振り返った。3年生で頑張ったことや目標にしていたことを尋ねると「作業を頑張った。」「友達がいっぱいできた」と話していた。「どんなことをしたら友達が増えたの？」の問いかけには、「友達が友達を紹介してくれたり、友達といっぱい話をするようになったから」と話した。また、「緊張しないで話ができるようになった」とも話していた。

保護者から3年生になり、友達との電話や休日友達と出かけるようになったとのこと。

対象生徒： S

1. 対象生徒の自立活動の目標

- ・多くのことに挑戦することができる。
- ・自分の気持ちをコントロールしながら友人関係を構築することができる。

2. 実施する期間、授業

4月～不定期 必要なときに実施

実施：10月 前提実習後登校日から

3. 面談者

- ・担任

4. 面談における主要要素

- ☒ 安心、信頼できる人に自分のことを伝える、相談する。
- ☐ 目標を立てたり、手立てについて考えたりする（自立活動の目標等について考える、理解する）。
- ☐ 日々の取組について振り返り、自分に合った手立てや環境等について考える。
- ☒ 過去の自分と比較したり、思い描いている将来像と照らし合わせたりする。
- ☒ 自己評価と他者評価を照らし合わせて、分析する。
- ☐ その他

5. 工夫や配慮したこと

以下の方向性で面談をした。

面談の方向性 ※この内容を保護者へ連絡

- ・無理せず参加出来る授業、参加方法を考える。
- ・3学期には授業に入り、今までと同様の学習活動を行うことを目標とする。
- ・今の状況を冷静に振り返り、何が問題であったか、自分の課題は何かを考える。
- ・授業に出ずに別室で対応していることは、社会に出たら通用しないため、今後このような状況にならないための考え方や解決策を模索する。

【担任の対応ポイント】

- ・授業については、本人の希望通りの参加とし、参加を促す言葉も掛けない。
- ・現在は、問題を解決することよりも本人の話を聞き、アドバイスをするよりもどのような話も受け入れることに重点をおいて話を聞く。

6. 面談内容と指導の結果

欠席したい気持ちは大きいですが、担任や副担任、他教員の声かけにより自分の居場所を見つける事ができている。安心はしていないが、登校することも方が良い事は理解している。

普段の他愛無い会話が一番安心した表情で話をしている。

記入者：鈴木 淳也

対象生徒： Q、R、S、T、U、V、W、X

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

10～12月

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☒ 多様な人と関わる（知る）。
- ☒ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☒ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☒ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

☒ 教科別の指導（ 保健体育 ）

○ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）

☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間

○ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり

☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

--

5. 具体的な学習内容（単元名等）

バスケットボール

6. 指導体制

1～3組：鈴木、吉田、須摩、4～8組：鈴木、吉田、須摩、内山、伏見

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

生徒の実態：3年間の経験をもとに、多様な運動経験を積んできた。運動が苦手な生徒も種目の特性を理解したり、コツを覚えて自分なりの上手いく方法を考え、実践できるようになってきた。 興味・関心：運動（特に球技）に関して、前向きに取り組む生徒が多い。運動を通して、他者と関わる楽しみを感じれる生徒が多い。 関わり方：基礎的な技能を様々な課題を通して身に付け、より良く実行できるような活動を多く取り入れるようにする。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

体力づくりでボールを使ったコーディネーショントレーニング（体や道具の使い方、調整力の育成）を取り入れて、身体機能や技能の向上を図る。
--

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

Q：教師からのアドバイスを受け入れ、自信の技能向上につなげることができた。 R：身に付けた技能を実践の場で生かそうとする場面が多く見られるようになった。 S：始めは集団活動に参加できず、授業の補助に取り組んだ。教師と取り組み方や参加の仕方をそうだなしながら徐々に参加・活動できるようになり、単元の後半からは、全ての活動に取り組むことができるようになった。 T：休みが多く、十分な取り組みができなかった。 U：前向きに取り組むことが多く、ワークシートや振り返りの場面で言葉にすることができていた。 V：ペアを組んだ生徒とコミュニケーションを取りながら取り組む様子が見られた。 W：意欲的に取り組み、上達の方法を自分なりに考えながらやり方を工夫する様子が見られた。 X：一緒に取り組む生徒とコミュニケーションをとりながら取り組むことができた。
--

記入者：堀端修司

対象生徒： V、W、X

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

12月

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☐ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☒ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☐ 学習グループ ☐ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

☒ 教科別の指導（ 情報 ）

☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探究の時間）

☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間

☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり

☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

学校祭を振りかえる(II)Movie の操作)

6. 指導体制

6～8組：堀端、市川、伏見

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

生徒の実態：指示書通りに行うなど是可以するが、オリジナル作品を作るなどは、自信がないためか躊躇することがある。

→授業の導入や最初は、個別の指導ができるように配慮する。

関わり方：生徒が遠慮なく、質問などをできるような環境を作る。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

V：話し合いの場面を設定することはなかったが、わからないところを隣に座席の安田さんに尋ねていた。制作では、自分なりにイメージし、行うことができていた。

W：完成したものを教師にみせて感想を尋ねていた。教師が「こうした方がもっとよくなるよ」と話すと、アドバイスを受けたことに取り組んでいた。

X：自ら話すことはなかったが、教師の問いかけに対して、「～をした」などと工夫したことを話すことができた。

記入者： 高橋

対象生徒： Q、R、S ※評価に関してはS

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- 個人** 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
 → できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- 対人** 経験の不足、負の経験
 → 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

10/17(月)4校時、10/20(木)3校時、10/24(月)4校時 ※予定

2. 計画する活動・体験

- ☐ 課題を解決する。
- ☒ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☐ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☐ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☒ 学級 ☐ 学習グループ ☒ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

☒ 教科別の指導（ 社会科 ）

☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）

☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間

☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり

☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

--

5. 具体的な学習内容（単元名等）

単元名「現代の国づくり」 題材名「選挙の仕組み」

6. 指導体制

MT…高橋 ST…林 t、須摩 t

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

生徒の実態、興味・関心：選挙制度の大まかな内容は既に知っている生徒も多く、実際に選挙へ参加した生徒もいる。成人年齢が18歳になったことで、選挙制度に関心をもち始めているが、政治やニュースに対する興味・関心や知識・理解は生徒間で差がある。

授業展開：模擬選挙の演説に向けて、各HRで模擬政党を作る。現在の日本の課題について全体で共通理解をしたあと、これからの日本に必要な政策を各HRの生徒で考える。また、政党のキャッチフレーズやマニフェストも考え、模擬選挙でピーアールできるよう準備を進める。

指導上の配慮事項：選挙制度の概要や政党の意味について予め理解した上で、協働的な学習ができるように進めていく。生徒にとって、候補者名を記入する「小選挙区制」はイメージしやすいが、「比例代表制」は馴染みが薄いと思われるため、選挙の方法についても授業で取り扱う。各HRで、可能な限り生徒同士が主体的に話し合いを進められるように配慮するが、各グループに教師を配置し、スムーズに話し合いができるよう支援する。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

社会生活担当者、外部講師との連絡・調整

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

S：友人関係の影響による不安により、集団参加が難しい時期と重なっていた。各HRで政党を作り、マニフェストを考える学習では、教室で一緒に活動することは難しかったが、石井先生と共にMeetで参加をしたり、Jamboardを使って自分の意見や質問を付せん記入することができた。その際、「教育に特化した政策にしては？」と意見を伝えることができた。その後の題材の授業では、担任と共に教室に入ったあと、1人で参加することができるようになり、教師からの発問や友達の意見に対し、自分の考えを発言することができている。今後も本人の心理状況に配慮しながら対応をしていきたい。

記入者：鐘ヶ江 真知

対象生徒： R、S、T、U、V、W、X

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
→ できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
→ 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

10～11月

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☒ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☐ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☒ 多様な人と関わる（知る）。
- ☐ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☐ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☒ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☐ 学級 ☒ 学習グループ ☒ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☐ その他（上記以外の集団、特記事項）

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

☒ 教科別の指導（ 音楽 ）

☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探求の時間）

☐ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☐ 学校行事 ☐ 総合的な探究の時間

☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☐ 社会生活 ☐ 体力づくり

☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

歌唱

6. 指導体制

1～3組：鐘ヶ江、石井、須摩、4・5組：鐘ヶ江、古田、山形、6～8組：鐘ヶ江、古田、板橋

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

生徒の実態：コロナの影響により、本校の学習活動の中で歌った経験がない。また、自分を表現することに抵抗が強い。

→授業の導入や最初は小集団のチームで取り組むなど段階的な指導に配慮する

興味・関心：みんなが知っている曲、歌いたいと思える曲、メッセージ性の強い曲を選ぶ。

関わり方：教師が率先して歌い、表現することが当たり前という環境を作る。

工夫：グループで曲に適した表現方法を考えるために曲の歌詞に強弱をつけて（考えて）歌ってみたり、曲から感じ取った風景について共有したりするなど、「自分達の歌」にできるような授業展開を行う。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

学年 LHR の中で、全員で歌う場を設定できるか相談する。

体力づくり体操時の掛け声（発声）についても関連して指導できるようにする。

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

R：最初は恥ずかしさや自信の無さから消極的な様子だったが、気持ちが高まったり頑張っている友達の影響を受けたりしたことで、本人なりに曲想に適した声で歌唱しようとする姿が見られた。

S：初めは「歌唱はやりたくない。」と発言していたが、事前に学習内容や教師の思いについて説明したこと、安心して取り組める友達とグループになったこと、本人が本番をより良いものにしたいという思いを強く思っていたこと等により、前向きに授業に取り組み、曲に合った表現で歌唱することができた。

T：早い段階で歌詞を暗記し、歌唱に取り組むことができた。

U：「楽しもう。」「やるしかない。」「後悔したくない。」など、自分の気持ちを教師や友達に伝えながら練習に取り組み、曲に合った表現で歌唱することができた。

V：より良い表現方法について話し合う活動の際に、自分の意見を伝えたり、グループで考え決めた表現方法で歌唱したりすることができた。

W：グループ活動の際に、友達の考えを聞いたり、本人なりに言葉を選びながら自分の意見を伝えたりしながら、歌唱を仕上げることもできた。

X：グループに分かれて練習する際に、練習方法について自分から意見したり、率先して大きな声で歌ったりするなどグループを引っ張ろうという意識と行動が見られた。

記入者： 川口、林、鐘ヶ江、石井、古田、横澤、堀端、板橋、本郷、内山、鈴木

対象生徒： Q、R、S、T、U、V、W、X

○ 本校生徒の課題の傾向（前年度の研究より）

- 主体性（自信、意欲、意思、積極性、向上心、精神面、責任感 など）
- 時、場、人に応じた言葉や振る舞い（規範意識、態度、言語、意思の表示、相談 など）
- 対人面（人間関係の構築・維持、人との距離感）

○ 想定される背景・環境（前年度の研究より）

- ☒ 個人 性格や特性、思春期・青年期の特徴、経験の不足、失敗経験
 - できない・分からない、自己選択・自己決定、自分で課題解決、不安、段階的な自己理解
- ☒ 対人 経験の不足、負の経験
 - 大人（親や教師）からの愛情や信頼関係、適切な関わり、友達との関わり合い、友達と課題解決

1. 実施する日時、期間

※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

5月～6月

総合、特別活動（見学旅行、見学旅行事前・事後学習）

2. 計画する活動・体験

- ☒ 課題を解決する。
- ☒ 自分たちで集団を作り、発展させる。
- ☒ 生活経験を増やす（学んだことを生かす、生かしたことを整理する）。
- ☒ 多様な人と関わる（知る）。
- ☒ 自分（またはチーム、相手）の気持ちについて考える。
- ☒ 企画、運営をする。
- ☒ 自分で目標を設定する。振り返る。
- ☐ 自己評価をする。他者評価を受け止める。
- ☒ 成功や失敗を繰り返しながら、様々な方法を学ぶ。
- ☒ いろいろな見方や考え方（人や仕事も含む）を知る、実感する
- ☐ その他

3. 学習集団（誰と学ぶか） ※安心できる身近な人との関わり⇔多様な人との関わり

- ☒ 教師と ☒ 学級 ☒ 学習グループ ☒ 学年内 ☐ 学年外 ☐ 学校外
- ☒ その他（上記以外の集団、特記事項）

見学旅行の自主研修、USJ のグループ

4. 指導の場（どの時間で行うか、教科等との関連）

- ☐ 教科別の指導（社会、音楽、社会、国語、家庭、数学、 ）
- ☐ 領域別の指導等（特別活動、総合的な探究の時間）
- ☒ LHR、SHR ☐ 生徒会活動（生徒会・委員会） ☒ 学校行事 ☒ 総合的な探究の時間
- ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ 作業学習（ ） ☒ 社会生活 ☐ 体力づくり
- ☐ その他（その他の指導場面、特記事項）

5. 具体的な学習内容（単元名等）

見学旅行

6. 指導体制

学年全職員

7. 工夫や配慮すること

（生徒の実態、興味・関心、指導の段階、関わり方、授業展開、座席配置、教材 など）

見学旅行に関する活動(個々の児童生徒の興味や関心のある活動の)で、生徒が楽しんでいる場面に教師が「楽しそうだね」、「それいいね」などの言葉掛けするなどして、人とやりとりをすることや通じ合う楽しさを感じさせる。また、生徒同士の相互的なやりとりを教師が仲立ちするなどの基礎的能力を高める指導をする。

8. 他の関係部署と調整が必要なこと

特になし

9. 指導の結果と次に向けて（対象生徒を中心に、自立活動の目標や指導内容を踏まえて評価）

○自主研修

Q(堀端、横澤)

- ・学校生活で関わりが少ないグループメンバーのためか、関わりが過度になることもなく、話し合いに参加していた。自主的に話し合い内容を板書している場面が見られた。

R(堀端、横澤)

- ・教師が促すことで調べたことをグループに伝えることができた。
- ・USJ 自主研修の計画段階で、自分のやりたいことを周りに伝え、周りの意見を聞いた上で実際に行けるかなど判断することができた。

S(本郷)

- ・リーダーへの立候補や計画書への記入、パソコンで打ち込みなど、積極的に取り組んでいた(エクセルでの入力経験が少ないようであったが、考えながら行っていた)。計画書については、しおりに使用されることも見通し、整理しながら取り組んでいた。

- ・計画書に必要な情報をメンバーから集める中で、情報を整理し、疑問点などをメンバーに確認したり、新たなアイデアを出したりする様子が見られた。

T (鐘ヶ江)

- ・班のリーダーには立候補しなかった（立候補は甲斐君のみだった）。話し合い活動は、他のメンバーが主に進めているが、公共交通機関のルートと、京都駅で食べる物の検索は積極的に行い、他のメンバーに伝えることができていた。
- ・話についていけているかを一人ずつ確認したときは「大丈夫です。」と答えた。様子としては怪しかった・・・。

U (堀端、横澤)

- ・発言を促すことで自分の行きたい場所を周りに伝えることができた。基本的には教師を介してであったが、〇〇に見せてあげたら？など促すことで、生徒同士でコミュニケーションをとっていた。

V (石井、鈴木)

- ・積極的に活動に参加。i Pad で調べ、自分の興味のあるところの情報をメンバーに知らせていた。メンバーの希望も聞き、話し合いに参加していた。

W (石井、鈴木)

- ・積極的に意見を出して話し合いを進めていた。他のメンバーの意見を尊重し、i Pad で検索しながら情報を集めていた。
- ・集めた情報を組み立てることは他のメンバーがやっていたが、話し合いには参加をしていた。欠席していたメンバーに状況を伝えていた。

X (板橋、川口)

- ・活動計画時、欠席が続いていたため、かなり話し合いが進んだ状態の時に参加。スムーズに合流でき、タブレットで調べたり、意見を伝えたりすることができた。
- ・マナーについて考える学習では、自分の考えを記入したり、他の人の意見を聞いて参考にする様子が見られた。また、リーダーの投げかけに耳を傾けるなど、話し合い活動に参加しようとしていた。

○ユニバーサルスタジオジャパン

Q (堀端、古田)

- ・活動計画時、学校生活で関わりが少ないグループメンバーのためか、黙々と iPad で情報を検索していた。また、グループ検討時も自分の意見を話し、他のメンバーの意見も静かに書いていた。

R (川口、横澤)

- ・活動計画時は、仲の良い友達と楽しそうに買いたいお土産や行きたいブースを iPad で調べていた。また、自分の希望を皆の前ではっきりと伝えることができていた。

T (石井)

- ・興味があるアトラクションを検索し、積極的に話し合いに参加していた。他のメンバーの意見はあまり聞いていなかったが、乗る順序や夕食場所など行程計画を話すと「大丈夫です。」と返事はしていた。

U(川口、横澤)

- ・事前学習の活動全般において終始表情よく活動していた。仲の良い友達とお土産や行きたい場所等を iPad で検索したり、話し合ったりして選ぶことができた。また、自分の希望を友達に伝えたり、友達の希望や意見にも耳を傾けていた。

V(本郷)

- ・計画時に話題になったことや好きなキャラクターをタブレットで調べ、その情報をもとに会話をしたり、自分の興味のあることについても伝えたりすることができた。
- ・欠席していたメンバーに、グループの計画を伝えることができた。本人は「口下手なりに頑張りました。」と、話していた。

W(堀端、古田)

- ・活動計画をグループで検討した。リーダーとして教師からの本時の検討内容の聞き、不安な表情を見せていたが、メンバーから意見を聞き、自ら進めることができた。

X(板橋)

- ・事前学習では、当初は2名しか話し合いに参加していなかったなので、お互い自分の希望を伝え合い原案を決めることができた。また「次の時間は何を買うか調べたいです」と板橋に伝えることができた。

(2) 校内研究に関するアンケート

研究の成果と課題についてまとめ、今後の研究に反映させるために、校内研究の内容や方法、その他意見や要望等について職員にアンケートを取った。その内容を以下に示す。

① 「自立活動の指導」について、事例研究を通した実践検証を行う。

○生徒を抽出し、複数で「実態把握、目標等の設定、評価、改善」を行った。

○教員間で、生徒の目標や評価を共有した。

- ・学校祭の学年ステージの係発表の活動を基に実態把握の参考にできた。
- ・日常生活の中で生徒の実態について教員間で積極的に共有を行ったことで自クラスの生徒だけでなく他クラスの生徒を見たり会話したりする機会が増えた。
- ・自立活動の目標をより一層意識して授業に向かうことができたし、共通理解して取り組むことで成果をあげることができたと思う。(目標達成に近づける)
- ・自分のクラス以外の生徒についても情報共有することができた。担任とできるだけ同じ視点で関わるように努めることができた。
- ・抽出した生徒について複数で実態把握や評価ができたのは貴重だった。
- ・1年生ということもあり実態把握に大変つながり良かった。
- ・一人の生徒について色々な話をしたり、エピソードが聞けて良かったです。
- ・他のクラスの自活の目標を共有し、指導につながった。
- ・具体的に生徒の課題、改善点を共有できてよかったと思います。
- ・良かった(主にクラス内での話し合いが多かったが生徒の目標、課題が共有でき指導に活かすことができた)
- ・自分の学科の生徒(福祉)については実態把握、評価、共有できた。
- ・課題や目標を共有できた。
- ・生徒との話し合いを通じて実態把握に努めました。
- ・グループの中に教科担当をしている生徒一人しかおらず実態がよく分からない部分があった。
- ・個別の指導計画と様式を兼ねた方がよかったのでは。
- ・個別の指導計画の自立活動の目標と別の目標を研究のために設定するという方法があまりよくなかった。
- ・他教科での様子が共有できた。
- ・事例を通した研究でしたので、様々な授業の様子を共有でき、学級だけでは行き詰まるような時にも、関わり方、指導法など新たなアイディアの広がりもあり良かった。
- ・目標立てだけでなく、結果や変容を含めて多くの先生方から話を伺うことができ、生徒を多角的に捉えることができた。
- ・生徒の目標に向けて役割を担うことができた。
- ・自立活動という縛りがやりづらかった。
- ・生徒のことを複数の視点で考えられたことが良かった。
- ・自立活動の評価を多面的な視点(各教科等)でできたことが良かった。
- ・本当は、授業の様子やエピソードをもっとたくさん話したくても業務に追われてなかなか話せないの、研究を通して交流できて良かった。

- ・自立活動は難しく、全部正解のようにも感じる。事例生徒について意見を出し合うことで、よりベターな方法は何かなど、自立活動の指導について深められた。
- ・事例生徒に対する指導を他生徒に応用することができた。
- ・何気ない日常の中で、小さな変化や変容を見逃さずに評価し共通理解することができた。
- ・先生方の話の中から、新たな視点を学ぶことができた。
- ・研究を通して、生徒のことについて話せてよかった。
- ・あまり問題等が見えづらい生徒を事例対象とし、自立活動の目標からアプローチできた。
- ・学級だけでなく、学年で生徒の目標や評価、かかわり方などを共有できてよかった。
- ・学年生徒全員の目標、評価、改善は難しい？

② 本校生徒に必要な活動・体験を「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で授業を“計画”、“実施”、“評価”をする

ア 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の各場面で見た生徒の成長や変化

○「個別最適な学び」 ※様式1を使用した指導

(生徒が学校生活の目標を立てる・振り返る、教師に相談する、自己理解を進める…)

- ・自分の課題を理解し、目標達成にむけてがんばろうと意識して行動できた。
- ・友達のことを偏見で決めず「そういう人もいる」と受け入れる努力ができるようになった。慣れた人、慣れた環境で色々なことに挑戦できるようになった。
- ・面談を通して相手のことを考えて、発言、行動するという意識付けにつながった。
- ・現場実習や進路について面談していく中で具体的に何をがんばっていくかを本人と確認でき、それを実行しようとする姿が見られた。
- ・定期的（計画的に）個別の面談を行うことで生徒の実態状況を把握できるとともに、生徒が自分についてふりかえり整理し、成長につながるのよかった。
- ・先生方が共通認識のもと、生徒が色々な先生と面談することで自分の課題について自己理解が深まった。
- ・学校祭における目標設定がちょっと唐突なかんじがして実践につなげづらかった。
- ・定期的な面談により生徒の自己理解が深まっていった。
- ・教師からの助言を受け入れながら生徒自身の考えが深まって行くのが感じられた。
- ・一見そつなく生活している「埋もれがちな生徒」にスポットを当てることができた。
- ・アイデアのバリエーションが増える。→生徒ひとり一人に「あなたのこと見ているよ」と伝わる活動になった。
- ・日常的に当たり前に行っていることを一つのツールを使い指導者側の研鑽や確認の場となった。
- ・教科でも担任の思いが聞けて、自立活動を意識した指導ができた。
- ・多くの先生から評価をもらえて良かった。
- ・自立活動が必要だからここに来ている生徒なのでそれをメインに話し合えて良かった。
- ・個別指導はあまり必要ないと思っていた生徒が、結果的に個別的な指導を多く行うことになった。
- ・集団の授業を抜いて面談をする必要性を先生方で共通理解できたことで、その後の成長につなげることができた。

- ・主に担任が様式1を活用した。様式1を活用した面談等は、担任だけでなく、他の教師も加えて行ったほうが、効果的だと感じた。
- ・一部の生徒は、様式1を活用しながら面談を行い、生徒と確認しながら目標を設定、振り返り、自己評価を行うことができた。

○「協働的な学び」 ※様式2を使用した指導

(人と関わりながら課題を解決する、自分たちで集団を発展させる、いろいろな見方や考え方を知る…)

- ・自分の目標を立てる評価する場面では、生徒が目標に向かって達成する姿が行動として見る事ができた。
- ・学校祭では、3人とも集団の設定された場で成長がみられた。そのような場面設定ができた。
- ・学校祭の学科企画の協働的な学びの中でグループの調整役でリーダーシップを発揮できていた。
- ・自分のことよりも人のことを思って行動したり人の意見に耳を傾けたりできるようになった。
- ・意識して場面設定できた。
- ・総合の場面で入学当初は他者と相談することができずにいたが、協働的な学びをすすめるうちに他者へ相談する機会が増えてコミュニケーションをはかれるようになった。
- ・答えを出すことより考え方を導くこと。
- ・学級の友人との関わりの中で他の人の手助けをしたり、仕事を引き受ける積極性を少しずつ身につけたりすることができた(HR活動)。
- ・学校祭、学年グループの活動で友達と協力することや集団でのコミュニケーションの方法を身につける指導を行った。
- ・学校祭では学年プールで1つの目標に向かい取り組むことで協働的な学びを達成することができたのではと思う。主体的に皆で話し合ったり行動したりすることができた。
- ・授業を通し、様々な課題を解決する力が身についたと思う。
- ・グループワークを授業に取り入れることで生徒が話し活動が上手になった。
- ・学校祭を通して新たな面をみせた生徒がいた。
- ・いろいろな生徒、先生と学校祭を通して関われ、新たな成長につながった。いつもはみられない姿(得意なこと、取り組む様子)みられてよかった。
- ・活動グループを自分で選ぶことで意欲的に取り組み、個々の成長が感じられた。
- ・自分に合った活動を選択することができ、活動の幅が広がった。
- ・教員の役割分担ができ、生徒への刺激の質、量共に上がった。
- ・個々の何を成長させるかを具体的に話し合えた。
- ・人との関わり合いをつくる有効性を実感した。
- ・生徒が主体となって進めることが、成長につながることができたと思う。
- ・人を認めることができるようになった。
- ・教科別の授業の中でも、他の学びの積み重ねから生徒同士が自然に話し合うようになり、教員は教え込みではなくファシリテータ的な役割で進めることができた。
- ・教科によっては、生徒の目標が「人間関係」、「コミュニケーション」等の生徒に対しては、生徒へのアプローチが難しい。
- ・協働的な学びを意識し、授業を改善・工夫することができた。

イ 効果的な指導方法や指導の場、指導を充実させるための課題

○「個別最適な学び」

- ・ 個別面談については、担任の先生方が個に応じて行っているが、どのような項目で、目的で行っているのか他からは見えないことが多く個々（担任）に任されている部分が多い。
- ・ 面談時間の確保が難しかった（LHRにすると副担任の負担が大きい）。
- ・ 体力づくりを担任フリーにして面談に使えると良いと思いました。
- ・ 色々な経験をして次へのステージへ進んでいく（総合）。
- ・ 経験からアップデートする（総合、外国語、HR）。
- ・ 自分の目標を確認したり振り返ったりするための、時間的なゆとりやタイミングが難しい。
- ・ 生徒に合った題材の設定がどの程度できるか。
- ・ 面談する時間設定が難しい。面談 week？、タイミング？
- ・ 面談する時間設定（どの教科で設定するのか？）
- ・ 資料作成し、そこから得られるものは何だったのか既存の個別の指導計画を活用しても良いのではないかと思う。
- ・ 今回行った指導を記録、集約して次の指導に活かして行くことが必要だと思う。
- ・ 集団になじめない生徒に対する学習の質と量の確保。
- ・ LHR での面談だと特別活動の時間が減ってしまう。LHR で副担任にクラスを任せ、担任が面談をすると、LHR の時間が特別活動として活用できない。体力づくりや作業などを活用した面談時間の確保ができないものだろうか。（担任が生徒を抽出して面談する時間が必要）
- ・ 個別に話をする時間が足りなかった。面談は問題が起きてからになってしまいがちなので、定期的な面談する機会があるとよい。
- ・ 日常生活の中で個別に話をしていた。
- ・ 必要に応じて、授業を抜いて面談を行っても良いという押さえがあるとありがたい。
- ・ HR活動だけでなく学年活動も充実させる。
- ・ 来年度も学年で生徒の課題や目標等を共有できれば（学年会以外で）。

○「協働的な学び」

- ・ 学年を超えたり、地域の方と関わったりするなど、さらなる経験を得る場所があるとよい。
- ・ 他学年、他学科とのコラボの難しさ（時間、単元の違い）。
- ・ 集団行動が苦手な生徒にとっての協働的な学びの設定の工夫。
- ・ 他学年との交流から始めると学校祭も盛り上がる？（昔行っていた委員会対抗の活動がいいかも？）
- ・ 「集団」の授業に入ることが難しい生徒の「協働」についてどのようにアプローチしていくのかを検討、捉え直しが必要だと感じた。
- ・ 「学校祭」をテーマにするならば、様式に執行部や委員会などについて記載できる箇所を作るべきだと思う。
- ・ 学科を超えたグループでの学びの場を更に設定できると良い。
- ・ 主体性を発揮させることは難しいが、教員がどのようにルールを敷くか、どう声を掛けて導くか、その中で生徒達にどのように考えさせるかが大切だった。

- ・やらされている感ではなく、納得して活動する指導の難しさと必要性。
- ・卒業後とのつながりという視点でも整理できるとよい。
- ・色々なことを経験させることが大切。その中で、できることやできないことがあり、自己理解につながる。
- ・他学科や他学年、地域など、実体験を伴う活動を色々な人との関わりの中で行うことが大事だと思う。
- ・集団づくりが大切。小さな集団から発展させていけるように整理できると良い。
- ・生徒同士で授業を見あう(作業学習)などを行い生徒の意識を高める。
- ・学級活動だけでなく学年活動を充実させる。
- ・行事等で生徒同士や教師の共同的な学びが効果的であった。

③ 校内研究（研究部）への意見や要望

- ・生徒のことを真ん中においた研究だったので話も盛り上がり良かったと思います。
- ・略案程度を各自用意してお互いの授業を見合う機会があるとありがたいです。
- ・教務と研究部との連携が必要だと思う。
- ・進路に関する研究はどうですか？
- ・できる限り「実践に活かせる」、「普段の悩みを解決できる」ような研修。
- ・「個別最適な学び」、「協働的な学び」などのワードの具体的な場面やイメージの共有を行う。
- ・年間を通して同じ生徒である必要はないのでその時、その時に担任が困っている生徒についてざくばらんに話せると良いと思う。
- ・自立活動に焦点を当てた研究はなかなか現実の日常指導や学習指導に距離があるように感じる。
- ・生徒指導をテーマに生徒理解、保護者などの背景の理解、生徒と信頼関係を作る授業作りを研究していくのはどうか。
- ・新シラバスの作成をうけて学習内容と評価規準の整理が必要。
- ・別な生徒を対象にもう一年やっても良い。
- ・普段から生徒について話し合える時間がない。研究で時間を設定してもらえたことが、とても良かった。【同様の意見多数】
- ・「NO PC DAY」を作ると職員室での先生方の会話が増えるかもしれない。
- ・自立活動の目標立ての参考になった。
- ・事例研修の形は、日々の指導に結びつきやすく良かった。
- ・PICK UP した生徒に対する意見を多くもらえたことは、担任としてとても良かった。
- ・自立活動の項目に振り分ける際に障害について理解を深める必要がある。
- ・教科の目標に自立活動を加味した目標を立てられると良い。
- ・**個別の指導計画（校内研究用）**の様式は、自立活動の指導を可視化することができ、主観だけではなく客観的に指導について考えることができた。
- ・不登校についての研究を取り上げてもらいたい。
- ・性教育について学校全体で取り組んだ方がよいと思う。
- ・本年度の研究は、縦割りなどでなく学年で行い深められた。
- ・事例検討のように生徒一人を深く掘り下げるのではなく、学年で各クラス1名が行うことができてよかった。